

情報処理学会・コンピュータと教育研究会 情報教育シンポジウム
Summer Symposium in Sengokuhara 2006 ~ 情報教育のさらなる未来 ~
論文募集のお知らせ

以下は概要です。詳細は必ず以下の URL のページを御覧下さい。

<http://ce.eplang.jp/?SSS2006>

スケジュール

2006 年	
4月13日(木)	論文募集要領発表
6月2日(金)	論文概要投稿締切
6月30日(金)	採否決定通知
7月21日(金)	カメラレディ原稿提出締切
8月26日(土)	SSS2006 開催

内容が優秀な発表と原稿については、情報処理学会論文誌への投稿論文として推薦いたします。

論文投稿形式

投稿形式は3通り(フルペーパー、ショートペーパー、デモンストレーション)あります。フルペーパーまたはショートペーパーの場合には、最初から最終原稿を投稿することもできます。よりの確かな査読を行うために、論文概要の分量を従来より増やしていますので注意してください。必要に応じて図表等を用い、査読者に十分発表内容が伝わるよう配慮をお願い致します。また、原稿執筆の際には、原稿執筆案内(PDF形式、Word形式)も参照してください。

カテゴリー	概要	最終原稿	時間
フル	4~8頁	8頁以内	30分
ショート	2~6頁	6頁以内	20分
デモ	1頁	2頁以内	未定

投稿にあたっての注意事項

投稿カテゴリーと投稿形式に注意して「論文概要」または「最終原稿」を作成して下さい。なお、「フルペーパー」または「ショートペーパー」に投稿する場合には、査読の公正さを保つために、筆

者・所属・住所・連絡先等を原稿に含めないようにし、さらに、概要や本文から、著者の大学名・組織名・会社名・人名が容易に推察されないよう工夫して下さい。

採録確定後の原稿には、具体的な名称も挿入できません。「デモンストレーション」に投稿する場合は、具体的な名称を含んでも構いません。なお、投稿の際には、

査読とその結果

フルペーパーまたはショートペーパーとして投稿された論文概要または最終原稿は、著者の名前や所属をふせて2名以上の委員が査読します。査読後、プログラム委員会から投稿者に宛てて、審査結果と査読コメントをお知らせします。採録された論文については、カメラレディ原稿を提出していただきます。

なお、フルペーパーで投稿された場合にはショートペーパーまたはデモンストレーション採録となることがあります。また、ショートペーパーで投稿された場合にはデモンストレーションで採録となることがあります。

デモンストレーションで投稿された報告概要は、プログラム委員1名が査読します。査読後、プログラム委員会から投稿者に宛てて、審査結果をお知らせします。採録された報告については、カメラレディ原稿を提出していただきます。

論文投稿に関するご質問

論文投稿に関するご質問は、プログラム委員会照会先までご連絡ください。

sss2006@oberon.nagaokaut.ac.jp

裏面も御覧下さい

情報処理学会・コンピュータと教育研究会 情報教育シンポジウム
Summer Symposium in Sengokuhara 2006 ~ 情報教育のさらなる未来 ~

大会主旨

高等学校の普通教科「情報」が2003年に必修科目として導入されて3年が経ちました。その成果について、関係者による多面的な評価がなされていますが、同時に問題点も明らかになりつつあります。一方では、教科「情報」の見直し、中学校における情報科目の導入など、情報教育の強化が国策の重点項目として検討されています。

昨年(2005.10)、情報処理学会情報処理教育委員会が「日本の情報教育・情報処理教育に関する提言2005」を公開しましたが、当研究会でも、情報教育は我が国の将来に関わる重要な問題として捉え、1996年以来、教育課程改訂の動きに大きな関心をもって、さまざまな機会に議論を重ねてきました。また、多くの研究者や教育者が参加できる2泊3日のシンポジウムを開催して、理論と実践の両面から専門的な議論を展開してきました。

第1回目(1999)は「高校の新教科「情報」が開く世界」というテーマで、情報教育の在り方、教育に携わる人材の育成、情報教育の基盤整備や教材に求められる特性などを明らかにしました。今回は第8回となりますが、当時の少し先進的だった新学習指導要領による教育の内容を振り返りながら、さらに将来の教育に目を向ける必要があると考えています。

このような背景のもと、本シンポジウムでは、この3年間の情報教育成果を踏まえて

- 教科「情報」の教育実施に対する問題と知見
- 推進が提言されている「教育の情報化」

について議論し、

- 小学校から大学にいたる情報教育科目の将来
 - 日本における情報教育の目的と方向性
- などを考察することで、今後の情報教育のあり方を示したいと考えています。

SSS2006はこれまでのSSSの形式を踏襲して、

- 1 情報教育の専門家
- 2 初等中等教育の教員を中心とする教育の専門家
- 3 教育ソフト・教育コンテンツ作成に関わる

企業の専門家

の方々の参加を広く募り、実り多い議論を実現したいと思います。おもな項目を下にあげますが、これらに限らない魅力あるテーマも歓迎いたします。

- 1 情報教育の目指すもの
- 2 情報教育の現状、実践、教育手法
- 3 情報教育の将来、あり方
- 4 教科「情報」の実施報告、もたらしたものの、今後の展開
- 5 教育の情報化の目指すもの、実践、今後の展開
- 6 教科「情報」教育教材の設計・実現・評価
- 7 その他

概要

開催日時(予定)

2006年8月26日(土) 昼~28日(月) 昼頃

場所 駿河台学園箱根セミナーハウス紅雲荘
(神奈川県 足柄下郡 箱根町 仙石原)

主催 (社) 情報処理学会

コンピュータと教育研究会(CE)

共催 (社) 情報処理学会、同情報処理教育委員会、同コンピュータサイエンス教育委員会、同ソフトウェアエンジニアリング委員会、同情報システム教育委員会、同一般情報処理教育委員会、同高専教育委員会、同初等中等教育委員会、同アクレディテーション委員会

招待講演

教科「情報」の教科書について

林 英輔(麗沢大学教授・山梨大学名誉教授)

パネルディスカッション

初等中等教育における「教育の情報化」

パネリストとして、高校教員、大学教員、予備校講師で授業手法などに情報機器などを活用している方を予定。

詳細は必ず以下のURLのページを御覧下さい。

<http://ce.eplang.jp/?SSS2006>

裏面も御覧下さい